

生分解性マルチの効果確認試験

JA北ひびき

佐藤 昭徳



①慣行品展張時



②試験品展張後



③試験品展張時②



④試験品展張時



⑤鋤き込み後の様子

試験目的

生分解性マルチの効果確認試験

試験作物
及び品種

南瓜(品種:ブラックのジョー)

試験資材
及び数量(規格)

きえ太郎Z ※旧商品名:コーンマルチII (0.015mm×95cm×600m)

慣行資材

ビオフィレックスマルチ(0.018mm×95cm×600m)

栽培方法

定植日

6月15日

収穫日

9月7日~11日

資材使用期間

慣行区:6月上旬~9月下旬
試験区:6月上旬~9月下旬

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品よりも伸びがあると感じた。慣行品と比較すると展張しやすかった。

伸びがあるため展張直後は若干縮む感覚があるが、圃場に馴染むような印象を受けた。

ピッチマークが薄く見づかったため、色を濃く印字を大きく改良してほしい。

試験品の方が収穫した南瓜がマルチに付着しにくく、作業がしやすかった。

収穫直後にパワーディスクで鋤き込みを行い、分解性は慣行品と比較して遜色なかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

試験品のほうが若干乳白感が強いと感じたため差が出るかと思ったが、雑草の量や保水性、生育等の差は見られなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:展張作業性が良く、伸びがあるため圃場に馴染むような印象。試験品の方が収穫した南瓜がマルチに付着しにくいと感じた。

【問題点】:印字の色が薄いため、濃く大きく改善してほしい。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

傾斜地でも縦避けすることはなく、慣行品よりも薄い強度も問題ないと感じた。

(5)促成・抑制効果について

特に問題なし。水持ちについても慣行品と同等程度。

モニター感想

慣行品と比較し遜色ない資材であることが確認できた。

来季は今年度実施した圃場よりも、傾斜がきつい圃場で作付する予定のため、引き続き作業性等を確認したい。

価格面次第では試験品に切り替えも検討していきたい。

JA担当者の感想(生産資材課 中川 氏)

慣行品と比較して遜色ない資材であることが確認できた。

特に慣行品よりも展張作業性は評価されているため、取りまとめ時に生産者にPRしていきたいと思う。

価格面次第では普及する可能性は大いにありと期待したい。

今後の使用について

継続して使用したい。